

講義名	対)パーソナリティ論			
担当教員	綱直 優子			
開講期・曜日・時限	前期 月曜日 1時限	授業形態	講義	
履修開始年次	2年生	単位数	2	備考

**主題と概要**

私たちは、個人の考え方や行動の仕方に一貫した傾向を見出し、「Aさんは社交的な人だ」、とか「Bさんは神経質な人だ」などと表現する。このように、個人の思考や行動を特徴づける一貫した傾向をパーソナリティといふ。

本講座では、パーソナリティがどのように形成され、どのように我々の社会生活に影響を与えるのかについて学んでいく。また、我々のパーソナリティを客観的に理解していくために、どのような方法があるのかを学んでいく。講座の中では、実際に自己のパーソナリティを測定し、その結果についても分析していくことで、自己理解を深めていく。

**到達目標**

パーソナリティがどのように形成されるかを理解することができるようになる。  
 パーソナリティをどのように測定するかを理解することができるようになる。  
 パーソナリティにはどのような側面があるかを理解することができるようになる。  
 パーソナリティが我々の社会生活に与える影響を理解することができるようになる。  
 自分のパーソナリティ特徴について客観的に理解することができるようになる。

**提出課題**

毎回の授業で課題等を提出する。  
 課題内容と提出方法は授業時に説明する。

**課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック**

学生の状態や要望に沿って行う。

**評価の基準**

毎授業の課題（40％）  
 中間レポートと最終レポート（60％）

**履修にあたっての注意・助言他**

毎回の授業で小課題が提出されるが、その課題は次回の授業までに必ず完成させておくようしておく。  
 の課題は、突然提出を求められるので、毎回提出できるように準備を整えておくこと。  
 毎回授業に出席すること、インターネットの状況なのでどうしても出席できなかった場合は、次の授業までに講義連絡を確認し、授業内容の理解に努めること。  
 「課題学習法」と「同時双方向」を併用します。授業前半は、同時双方向で行い、後半は各自授業内で出された課題学習を行ってまいります。変更がある場合は、授業内もしくは講義連絡でお知らせしますので、各自が責任をもって確認をよろしくお願いいたします。

教科書					
.使用しない。					

**プリント資料及び参考文献**

・プリントを適宜配付する  
 ・参考文献）  
 ・梅本春孝・大山正 監修（2003）「性格心理学への招待」（改訂版）サイエンス社  
 ・清水弘司（1996）「初めて触れる性格心理学」サイエンス社

**授業計画**

第1回：パーソナリティとは：性格と人格  
 第2回：パーソナリティの発達：パーソナリティの発達に遺伝と環境がどのように関わっているのかを学ぶ  
 第3回：パーソナリティの発達：パーソナリティの発達に遺伝と環境がどのように関わっているのかを学ぶ  
 第4回：類型論と特性論：血液型と体型  
 第5回：類型論と特性論：特性論の種類  
 第6回：類型論と特性論：性格の因子数（性格にはいくつの側面があるのか？）  
 第7回：パーソナリティの理論と実際：5因子性格検査  
 第8回：パーソナリティの理論と実際：Y-F性格検査  
 第9回：パーソナリティの理論と実際：作業検査  
 第10回：パーソナリティの理論と実際：性格検査まとめ  
 第11回：対人魅力：好まれる人と嫌われる人  
 第12回：対人魅力：類似説と相補説  
 第13回：対人コミュニケーション  
 第14回：自己意識と自尊心  
 第15回：健康とパーソナリティ

**授業形態（アクティブ・ラーニング）**

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

**準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間**

自回のテーマに沿って下記の予習、復習をすること。  
 予習：シラバスに記載している参考文献あるいは、自分で読みやすい「性格心理学」、「パーソナリティ心理学」などの書籍を選び、次回の授業のテーマに関連した箇所を読み、重要語句をノートに書きだし、語句の説明をまとめること（予習時間：1.5時間）  
 復習：授業内で示されたキーワードを理解できているかを確認し、理解できていない場合は、参考文献を活用し、調べなおすこと。また、配付資料に質問問題が用意されている場合があるが、その部分について、再度解答してみる（復習時間：2.5時間）。

**卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連**

到達目標の、を達成することで、「人間の精神機能と心理学の研究法に関する基礎的知識を有し、さまざまな場面に直面する人間の心理と行動を科学的に分析し予測すること」に貢献することができる。また到達目標のを達成することで、「日常生活と文化、人々の心理など、現実社会の様々なテーマに取り組み、よりよい人間社会を創造すること」に貢献することができる。

**双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述**

授業の内容によっては、クリッカー（Respon）を利用する場合がある。

**実務経験の有無及び活用**

「実務経験あり」授業内で行ういくつかのパーソナリティ検査については、病院臨床で人格査定で活用している。

**備考**

コロナ感染者、あるいは濃厚接触者になった場合、「オ」パーソナリティ論」の授業を受講すること。自宅待機の期間が過ぎたら、速やかにこの授業（対）パーソナリティ論）に出席すること。